

平成20年度 病害虫発生予報 第10号

平成21年1月23日
栃木県農業環境指導センター

予想期間 1月下旬～2月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 ・現在の発生量は平年並。(±)
・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照は少ない～平年並であり、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
(3) 対策 ・ハウス内の低温多湿が発生助長要因となるので、下葉を取り除き風通しを良くするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
・発病果実等は伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。
・発生の初期にダイマジン、フルピカフロアブル等を散布する。
・降雨が続いて湿度が高い場合は、スミレックスくん煙顆粒等の使用も効果的である。
(4) 備考 ・灰色かび病は、収穫直前の果実に発病しやすい。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 ・現在の発生量は平年並。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生にやや適している。(±～+)
(3) 対策 ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適切な温度管理やかん水を行う。
・発生を予防するため、硫黄粒剤によるくん煙を行う。
・発生初期にアミスター20フロアブル、サンヨール等を葉裏にもよくかかるように散布する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 ・前月に引き続き発生量は多く、発生ほ場率、発生株率とも平年の約2倍と高い。(+)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に好適な条件が見込まれる。(+)
(3) 対策 ・気温の上昇に伴いハダニ類が多発生すると防除が困難となるため、この時期に防除を徹底する。
・発生が見られた場合、下葉かきを行い発生密度を下げ、サンクリスタル乳剤等の気門封鎖系薬剤をスポット散布するか、マイトコーネフロアブル、コロマイト水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。
(4) 備考 ・サンクリスタル乳剤は、日中の高温時には散布を避ける。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 ・現在の発生量は平年並。(±)
・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照は少ない～平年並であり、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
(3) 対策 ・ハウス内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
・植物体表面の結露は発病を助長するため、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。
・防除は予防を基本とし、暖房機を利用したボトキラー水和剤のダクト内投入を行う。また発生初期に、ゲッター水和剤、ハーモメイト水溶剤等を散布する。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
(2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない。(～±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生にやや適している。(±～+)
(3) 対策 ・生育に応じて葉かきを実施し、葉裏に寄生した幼虫や蛹を除去する。除去した葉は埋設やビニール袋等で密封し枯死させてから処理する。
・施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類を捕殺する。

- ・サンクリスタル乳剤等の気門封鎖系薬剤を定期的に散布し、コナジラミ類を低密度に抑える。
- ・タバココナジラミの発生が見られる場合は、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、サンマイトフロアブル等を散布する。
- ・アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は同じ成分（ジノテフラン）なので、総使用回数に注意する。

6 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量が多い。(+)
 - ・向こう1か月の降水量は平年並～多く、日照は少ない～平年並であり、施設内が多湿となりやすく、発病に好適となる。(+)
- (3) 対 策
- ・ハウス内が多湿にならないよう、日中に適度な換気を行う。
 - ・発生初期に、ストロビーフロアブル、セイビアーフロアブル等を散布する。

7 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量が多い。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、引き続き発生が見込まれる。(+)
- (3) 対 策
- ・発生が見られた場合、気門封鎖系薬剤をスポット散布するか、マイトコーネフロアブル〔適用害虫：ナミハダニ〕、コテツフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考
- ・マイトコーネフロアブルの使用時期は〔開花前まで〕なので注意する。

8 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
		平年並	平年並			平年並	平年並
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	きゅうり	アザミウマ類	平年並	平年並
	コナジラミ類	平年並	やや多			コナジラミ類	少
トマト	葉かび病	やや多	やや多	なら	乾腐病	少	少
きゅうり	べと病	少	やや少	きく	白さび病	少	少
	うどんこ病	平年並	やや多		アザミウマ類	少	少

農薬を上手に使いこなしましょう！

ハウス内で薬剤を散布するときは、午前中のうちに葉裏にも薬剤がよくかかるように散布する。同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。薬剤散布については、ミツバチ、マルハナバチに対する安全日数を十分考慮する。

1か月気象予報（予報期間1月17日から2月16日 1月16日気象庁発表）

向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。降水量は平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は高い確率80%です。2週目は平年並の確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
気 温	10%	30%	60%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

キュウリ退緑黄化病（仮称）、キュウリ黄化えそ病が、11月に県内の施設きゅうりで初めて確認されました。

詳細は、当センターのホームページ内にある「特殊報第2号 キュウリ退緑黄化病（仮称）」「特殊報第3号 キュウリ黄化えそ病」を参照してください。

病害虫発生現況の情報とマップを当センターホームページに掲載しています。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012